

## SDGsと地方創生で考える アフターコロナの政策課題

創政・改革クラブ  
中田 清介



**問** 人口減少化が進む市の政策課題は、突き詰めれば「地域に仕事があって若者が定住し、結婚、出産の夢を叶えられる社会の実現」であり、SDGsによる政策体系が求められている。アフターコロナの世界では社会システムの構造転換も求められ、市は政策の見直しに言及し、補助金の見直しにも切り込んでいる。税込減等歳入構造の変化に合わせどう対応されるのか。

**答** 令和4年度の予算編成に対する事業と補助金の見直しについては、全庁的に意識を共有している。また、行政内部だけではなく、関係する団体とも協議して進めていく。



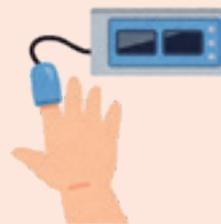
## 新型コロナウイルス感染症対応について

清和クラブ  
松林 彰



**問** 自宅療養では、生活支援や急変時の見守りが放置される可能性があるため、ホテル宿泊療養を拡大できないか。また、医療体制・看護体制の他、血中の酸素濃度測定器「パルスオキシメーター」の貸出しや生活支援が必要。こういった後方支援を考えているのか。

**答** 医療従事者等の支援スタッフの負担も大きくなることから、さらなる宿泊療養施設の早期確保について、県に対し要望をしている。県でも宿泊療養施設の確保に向けて対応しており、市としても、早期確保に向けて積極的に協力していく。



## こころふるえる アートの旅へ

清和クラブ  
松山 篤夫



**問** アートには人の心を動かし、地域を変えていく力がある。過疎化と高齢化に苦しんできた人口3千人ほどの小さな直島(瀬戸内)に、年間約72万人にも観光客が押し寄せ「現代アートの聖地」になっている。高根町には野麦峠、丹生川町・国府町には縄文遺跡等がある。過疎対策として支所地域を会場に自然と歴史にアートを挿入する文化芸術祭の開催はどうか。

**答** 地域活性化のため現代アートを活用する各地の取組は承知している。文化芸術の力で多くの人を呼び込むことは、地域活性化のひとつの手法であると認識している。



## 「住み慣れたまちで自分らしい暮らしを続ける」を支える訪問介護について

清和クラブ  
車戸 明良



**問** ほとんどの地域で訪問介護サービスが不足していると言われ、ヘルパー、介護職員等の人材不足に起因する訪問介護サービスを取り巻く環境は厳しい。どう取り組むのか。

**答** 要介護認定者は、今後も20年間は増え続ける。人材確保については、初任者研修を市が主導して実施するなど、複合的に様々な施策や支所地域など遠隔地の高齢者へのサービス提供の実情把握やその対応手法について検討を進める。ヘルパー事業を補完するため、軽度の生活支援を行う援助員の人材登録の仕組みの検討など、ヘルパーの負担軽減にも取り組む。

